

留 学 報 告 書

記入日:2020年4月20日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部国際日本学科
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ヤングスタウン州立大学 現地言語: Youngstown State University
留学期間	2019年5月～2020年3月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2020年3月21日
明治大学卒業予定年	2022年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:8月上旬～12月中旬 2学期:1月中旬～5月上旬 3学期: 4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	約 12,000 人
創立年	1908 年

留学費用項目	現地通貨 (ドル)	円	備考
授業料	14,000	円	交換留学のため明治大学が負担
宿舍費	5,640	円	前期・後期で別の寮に滞在
食費	300	円	前期の寮は週に12食、後期の寮は平日3食のミールプランが宿舍費に込み
図書費	525	円	
学用品費	10	円	基本的に文房具は日本から持参
携帯・インターネット費		40000円	日本で事前にアメリカで使用可能なSIMを購入して持参
現地交通費		円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費	200	円	
医療費		円	
保険費	1200	円	形態:この他に明治大学が指定する保険にも加入しました
渡航旅費	1500	円	
ビザ申請費		円	
雑費	200	円	寝具やライト、食器等の購入費用
その他	650	円	留学先大学から請求される施設利用料など
その他		円	
合計	24,225	40000円	

渡航関連

渡航経路

往路 出発地:成田国際空港 目的地:ピッツバーグ国際空港 経由地:JFK 国際空港(ニューヨーク)
 復路 出発地:ピッツバーグ国際空港 目的地:成田国際空港 経由地:ダラス国際空港

渡航費用

①往復チケットを購入した場合

航空会社: _____

料金: _____

②片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社: JAL 料金: 90,000 円

復路 航空会社: アメリカン航空 料金: 55,000 円 ∴合計: 145,000 円

航空券購入方法

旅行代理店(店名: _____) インターネット(サイト名: Skyscanner) その他(_____)

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)

学生寮(寮の名前: Kilcawley House/ Buechner Hall) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

個室 相部屋(同居人数 2 人)

3)共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

オンキャンパスの大学が公式で運営している学生寮が 3 棟(Kilcawley House はこれの 1 つです)あり、これらについては留学許可証と一緒にパンフレットのようなものが送られてきました。他にもオフキャンパス(と言っても授業が行われる建物まで徒歩 5 分程度です)の寮がいくつかあり、これらはインターネットで検索すると情報が見つかります。Buechner Hall もインターネットで見つけました。

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

秋学期は Kilcawley House に滞りました。住んでいる学生は 1 年生・現地生がほとんどで、YSU での生活が 1 年目という意味では同じ条件なのでこの寮に割り当てられたのだと思います。他にも大学が運営しているオンキャンパスの寮が 2 つありますが、Kilcawley House はキャンパスの中心にあり、レクセンターには外に出ずに行くことができました。教室も近いのでとても便利です。マイナスポイントとしては、他の寮に比べて部屋が小さいことと、寮費に含まれているミールプラン(週に 12 回、ピュッフェ方式のカフェテリアが利用できます)を利用するためにカフェテリアまで少し歩かなければいけないこと、がありました。また、寮の共有スペースで Resident Assistant が企画したイベントが頻繁に行われていました。共有スペースにはビリヤード台などがあり、いつも人がたまっています。フロア間での学生の行き来も多く、開放的な雰囲気です。春学期からは Buechner Hall という女子寮に移りました。Buechner Hall は大学とは別の団体が運営しているのですが、同じくキャンパスの中心にあり、とても便利でした。移動した理由は Buechner Hall の方が圧倒的に費用が安かったからです。後期からは寮費が半分以下になりました。Buechner Hall は寮費にミールチケットが含まれていて、月～金まで開いているベースメントのカフェテリアで利用できます。Kilcawley House のように寮内でのイベントはありませんでしたが、静かで過ごしやすかったです。Kilcawley House に比べると留学生の割合が大きかった印象があります。また、心なしか住んでいる学生も落ち着いた雰囲気の人が多かったように感じました。イベントが多く、いつも誰かが廊下にたまっているので交友関係を広げやすいという点では Kilcawley House も悪くありませんでしたが、Buechner Hall の「家らしさ」、授業から寮に帰ってきたらゆっくり落ち着ける雰囲気の方が私は好きでした。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例: 現地の病院, 学内の診療所)

- なし
 あり (治療を受けた場所: 保険会社に連絡して、提携している病院に行きました)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

- なし
 あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？その際どのように対処しましたか？

現地に到着してからオリエンテーション期間はかなり時間に余裕があったので学校の裏の公園を散歩していました。散歩から帰ってきて寮の Resident Assisnant に「今散歩に行ってきたの」と伝えたら「一人で？！危ないから気を付けてね」と言われてしまいました…。後日別の友達に聞いたところそれは少し大きすぎた、と返ってきましたがヤングスタウンの治安はこのような感じだと思っておいて間違いないと思います。学校の外には危ないので 1 人で徒歩で行くことはできません(特に女子)。それを理解してからは友達が車に乗せてくれる時以外は学校の外に行くのをやめたので特に危険な目には遭いませんでした。大学にいる限りは安全ですし、大学内・寮内で盗難にあったことは一度もありませんでした。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

キャンパス内の Wi-Fi は全く問題ありませんでした。

5) 現地での資金調達はどうに行いましたか？

日本からキャッシング機能付きのデビットカードを持参して、現金が必要な時は ATM から降ろしていました。日本の銀行口座に十分な残高がある限り、上限なく使用できるのでクレジットカードよりはデビットカードの方が使い勝手が良かったです。オリエンテーションの際に学校から現地の銀行の紹介がありましたが、帰るときに口座を閉じる手続きなどをやるのが面倒だと思い、利用しませんでした。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

基本的にはなんでも手に入ります。こだわりのあるものだけ持っていけばあとは現地調達で問題ないと思います。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
14 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input checked="" type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか？	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to World Religion	世界の宗教入門
科目設置学部・研究科	Philosophy and Religious Studies
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義型(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に50分が3回
担当教授	Nancy Dawson
授業内容	世界の宗教(ユダヤ、キリスト、イスラム、仏教、その他も民俗宗教など)の概要を学びます。
試験・課題など	全問選択問題のテストが学期中に3回、800文字程度のペーパーが2枚、Extra Credit の救済処置あり
感想を自由記入	自分が一番興味を持っている分野だったのでとても楽しかったです。先生が優しく、分からないことがあって質問しに行くと、私が一度で聞き取れなくても何度も説明してくださりました。この授業を履修していた生徒の中では留学生が私だけだったので、意見を求められることも何度かありました。「留学先では自分が日本代表」というのを痛感し、緊張しましたがとてもいい経験になったと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
American Dreams		アメリカ史入門	
科目設置学部・研究科	History department		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義型(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に60分が3回		
担当教授	Henry Himes		
授業内容	アメリカ史の概要、ヤングスタウンの歴史についても触れました。週に3回授業があり、月曜日は先生の講義、水曜日は講義に関連した歴史的な一次資料を読んで簡単なディスカッション、金曜日は60分全体が講義内容と歴史的な一次資料の価値、自分の意見をペーパーにまとめる時間にあてられます。		
試験・課題など	毎週金曜日の授業内で書く3パラグラフ程度のペーパーが評価基準になっており、そのほかにテストなどはありませんでした。		
感想を自由記入	大学受験の際にアメリカ史も学習していたのである程度の知識はあったのですが、アメリカ人の視点から見たアメリカ史を学習してみたいと思い履修しました。この授業の正式名称からもアメリカ人の歴史観がよく分かります。アメリカ史に限らず、留学先で歴史の授業を履修してみると国による歴史観の違いに驚かされることが多く、面白いのでオススメです。この授業については金曜日の授業前にしっかり準備する時間を自分で作ることができたので、成績に関しては全く問題ありませんでした。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to Sociology		社会学入門	
科目設置学部・研究科	Sociology department		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に50分が3回		
担当教授	Susan D Laird		
授業内容	社会学の中にあるいくつかの分野について基礎的な部分のみ学習します。あくまで入門編なので、社会学における「家族」「性別」「文化」「教育」などの役割を紹介することがメインです。この授業で社会学の概要を学び、さらにレベルの高い授業でその中からテーマを選んで専門性を高めるようです。		
試験・課題など	学期中に3回テストがありました。すべて選択問題です。テストの内容は7,8割が配布される Study Guide から、残りは先生が授業内に言ったことから出題されます。Study Guide の内容はしっかり見返しておけば問題ありませんでしたが、先生が授業内で言っていたことは聞き逃してしまっていると復習もしようがないので少し苦労しました。		
感想を自由記入	日本でも社会学の授業を履修したことがあったのですが、全然内容が違って面白かったです。担当の先生の専門が女性問題のようで、女性の権利や性犯罪の問題についてはかなり時間を割いてお話していました。また、授業内で取り上げられる事例が、ヤングスタウン・オハイオ州などのローカルなものが多く、周りの学生は当たり前のようにそのことを知っているのに、自分だけちんぷんかんぷんということが多々あり、少し苦労しましたが、自分の留学した場所について知識を増やせたと思うので良かったです。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Survey of Art History2	美術史概論
科目設置学部・研究科	Art department
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Johnathan A. Farris
授業内容	欧米は中世から現代まで、東洋は中世から近代、そのほかにアフリカ・南米の美術史を学習しました。先生がスクリーンに作品を映し出し、その解説を聞く講義型の授業です。
試験・課題など	好きな作品を一つ選んで、それについての解説を述べるかたちのペーパー課題が2回、中間テストと期末テストが1回ずつありました。ペーパーの課題は事前に下書きを先生に提出すると修正を入れてくださるので安心でした。ただ、中間・期末テストがかなり難しかったです。スクリーンに作品を映し出して、これについて自由に解説しなさいという形式の論述問題が10問程度と選択問題が4問程度です。
感想を自由記入	先生が東洋美術に造詣の深い方で、日本にもいらっしゃったことがあったり、香港には何年か住んでいたこともあったりしたそうで、日本人の私にとっても親近感を持って接してくださいました。授業内容はとても面白く、ペーパー課題も余裕を持ってやれば大失敗することはなかったのですが、やはり中間・期末試験にはとても苦労しました。友達に「その授業、キャンパスイテ試験が難しいって話だよ」と言われた時はギョッとしましたが、一番時間を割いて試験勉強に取り組んだので、何とか乗り越えることができました。
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Boxing for beginners	ボクシング(初心者向け)
科目設置学部・研究科	Kinesiology and sport science
履修期間	秋学期
単位数	2
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	実技(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が2回
担当教授	Rauzan Andrew
授業内容	バンテージの巻き方から始まり、ステップの踏み方、ジャブやフックなどごく基本的な事項のみを学習しました。自分から先生にお願いすれば、もっと難易度の高い技を習うこともできます。
試験・課題など	実技での中間・期末試験があります。
感想を自由記入	先生も優しく、かなり緩い授業でした。生徒は私と同じように本当にボクシング初心者の人が大半でしたが、一部以前からやっていたという人もいました。必要な道具は最初の授業で支給されます。前期はまだ授業にも慣れていなくて、ストレスがたまることも多かったので、この授業で身体を動かすのが良いリフレッシュになりました。また、この授業に限らず、体育の授業をとるのはかなりオススメです。勉強にならないじゃないか、と思うかもしれませんが、普通の座学の授業よりもくだけた雰囲気、先生や生徒の距離が近いので友達作りやすいです。日常会話の練習にもなるので、ぜひ挑戦してみてください！
卒業後の進路について	
1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記2以降は記入不要)	
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input checked="" type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:	
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など	
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください	
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。	
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。	
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。	
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。	

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備, 試験勉強, 留学中, 留学後, 特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

2018年 1月～3月	明治大学への進学が決定
4月～7月	入学当初から留学に興味があったため、学部授業には熱心に取り組み、GPA が低くなってしまわないように気を付けていました。
8月～9月	夏休みが始まってすぐに初めて TOEFL の試験を受けました。大学の授業がない期間だったので、語学力が落ちてしまわないように英語の勉強は自主的に行っていました。TOEFL は、初めて受ける際は少しシステムに混乱することが多いのと、実施回によって難しい Part に差があるようなので(試験料がかなり高いので悩むと思いますが)可能であれば留学の出願までに 2 回くらい受けておくと安心かなと思います。私は夏休み明けにもう一度受けてみることにしたので、そのこともモチベーションになって語学学習に取り組めたと感じます。
10月～12月	この時期から留学の出願・選考が始まります。大学間協定留学と国際日本学部の海外インターンシッププログラムを併願することにしたので、作成しないといけない書類が多く大変でした。中間試験と時期が被る可能性もあるのでできるだけ余裕をもって情報収集しておくの良いと思います。12 月中に協定留学の結果が出て、私が実際に行くことになるヤングスタウン州立大学への留学が明治大学からは許可が下りたのですが、学部プログラムの結果がまだ出ていなかったため一旦保留にさせていただきました。
2019年 1月～3月	年が明けてすぐに学部プログラムからも一次面接通過の連絡がありました。とても悩んだのですが、結局協定留学のプログラムに参加することにしました。まだ留学先からは入学許可証等は届いていなかったため、具体的に手続きを進めることはできなかったのですが、寮のことを調べてみるなどできる範囲で情報収集するようにしていました。
4月～7月	四月の終わりに留学先からようやく入学許可証が届きました(協定留学の中では比較的早く届いた方だったと思います)。ここから出発までは手続きで大忙しでした。5 月頃からビザ取得の準備を始め(オンラインで書類作成します)、6 月頃ビザの面接に行きました。ビザが届いてから航空券の予約や予防接種を行ったので、7 月頃だったと思います。滞在先は大学公式の寮以外は既に埋まっているところばかりで、ほぼ選択肢なく決定しました。基本的に交換留学生は大学公式の寮に滞在するだろうとみなされているようで、申し込みしたのもかなりギリギリでしたが滞在場所がないというようなことはなく、留学初日から寮に入ることができました。
8月～9月	到着して初めの一週間弱はオリエンテーション期間でした。アドバイザーの方と相談しながら受けた授業を登録し、授業が始まります。第一週はモジュール期間のようになっており、実際に授業を受けてみて思っていたのと違った、という場合は成績等に反映されることなく Drop out したり、別の授業を追加で登録したりすることができます。うちの大学は 8 月から新年度が始まり、新入学生が入ってくるので 9 月いっぱいくらいまでの期間は新入学生向けのイベントが盛りだくさんでした。
10月～12月	10 月中旬に Fall break が 1 週間ほどありました。また、多くの授業で 10 月頃に中間試験があります。その後 12 月の中旬に期末テストがあり、Winter break に突入です。取っている授業がいつ期末テストをやるかによって若干個人差はありますが、約 1 カ月間の休暇でした。
2020年 1月～3月	1 月中旬から後期が始まりました。3 月の初週頃に中間試験があり、中旬に 1 週間の Spring break があります。
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

英語圏の国にある大学だったこと、宗教学を勉強したいと思っていたことからこの大学を選びました。私は明治大学からこのヤングスタウン州立大学に派遣される初めての生徒だったので、分からないことばかりでとても苦労しましたが、今はそれも含めてとても良い経験になったと思っています。この大学に限らず、海外留学を考えている方に参考になるような残せたらいいアドバイスをいくつか残せたらいいなと思います。まず、学校の選び方です。私は 2 つの理由でアメリカを第一志望にしました。1 つ目は、今までずっと勉強してきた英語をもっと実用的に使えるようになりたいというものです。これは正直、英語圏のどこの大学に行っても友達さえできれば達成できると思います。2 つ目は、「色々な人種・バックグラウンドを持つ人が集まる環境に身を置きたい」です。私の中でアメリカは多民族国家で世界中の色々な国から人が集まってくる国、というイメージがあり、アメリカに行けばそういう環境が待っているだろうと思っていました。しかし、そういった「多様性」には、実際、州や地域によってかなり差があります。私が想像していた「アメリカ」はニューヨークやカリフォルニアなど沿岸部の大都会だったのだと思います。私のいたオハイオ州では人口の8割以上が白人、1割強が黒人、残りの1割未満がその他の人種という、私が想像していた「多様性」とはい程遠いものでした。留学前は地域による違いなんて、気候くらいしかないと考えていたので TOEFL のスコアと勉強したいことができるかどうか、だけを念頭に大学を選びました (Religious Studies Major があつたのがこの大学を選んだ決め手でした)。もちろん、最終的には「マイノリティとして生きるというのがどういうことなのか」「どんな環境にも屈せずに自分らしくある」というようなとても貴重な学びを得ることができましたが、最初の数カ月間は「私の想像していたアメリカと違う…」とへこみっぱなしでした。もちろんヤングスタウン州立大学に留学生が全然いないわけではないですが、他の地域に比べると少ない方だったのかなと思います。ただ、留学生があまり多くなかったり、大学の規模がそこまで大きくないと学校からのサポートが手厚いです。誕生日に、国際事務室からわざわざバースデーメッセージが送られてきたときは驚きました (笑) とにかく、アメリカに限らず、同じ国の中でも地域によって「雰囲気」がかなり違うのだと身をもって経験しました。留学先に迷ったら、国だけでなく州や都市のことまで調べてみるのもいいかと思えます。次に「協定後初めての派遣生として留学すること」についてです。前述の通り、私は明治大学からヤングスタウン州立大学に交換留学生として渡航した第一号でした。覚悟はしていましたが、とても大変でした。まず、手続き関連のことは前例がないので全て自分で調べてやります。もちろんビザ取得などは同じくアメリカに行く友達と情報交換しながら進めましたが、寮や授業のことなどはほとんど自力でやりました。明治大学の国際教育事務室の方も相談すれば色々アドバイスを下さるので何度もお世話になりました。しかし、基本的にはまず留学先に連絡してみて、それでもわからなければ明治大学に相談してみるといった流れになります。現地についてからもかなり苦労しましたがなんでも自力でやるという力が付いたかなと思います。また、現地についてからもうひとつ苦労したことに友達作りがありました。ヤングスタウン州立大学には日本人がほとんどおらず、日本人コミュニティのようなものは全くありません。よく言えば日本人同士で固まることなく交友関係を広げることができます。が、参考にできる前例もないので、どのコミュニティに自分は所属するべきなのか、自分でもついていけるのか、そもそもどんなコミュニティがこの大学内に存在しているのかさえ分からず、はじめのうちはオリエンテーションで一度話したきり、顔は覚えていたけどお互いのことをそこまで深くは知らない、いわゆる「ヨッ友」ばかりできてなんだか虚しくなっていました。どうしたら英語が現地生ほど流暢でない自分ともゆっくり話してくれるだろうかと試行錯誤して、自分が日本人であることをアピールして日本に興味のある人とランゲージエクスチェンジをしたり、International Coffee Hour に毎週参加したりと色々やってみました。私が感じたことは、とにかく一人で飛び込みでも良いから色々なイベントに参加してみることです。ただ道ですれ違うよりもイベントで会う方がお互い時間に余裕があるのそこから会話に発展しやすいです。イベントに参加しているような学生は開放的な人が多い (と思う) ので話しかけやすいです。友達作りは未知の環境にいれば難しくなるのも当然です。はじめは一番苦しんだと言っても過言ではないほど交友関係には悩まされましたが、2 月の誕生日にはサプライズパーティーを開いてくれたり、帰国時には「まだ帰らないでよ」と言ってくれる大切な友達ことができました。思い描いていたアメリカとのギャップ・最初の頃の交友関係の悩みのせいで、この留学が心の底から楽しいと思えるまでに 3 カ月以上かかりました。それでも留学から帰ってきた今思うのは、楽しかった時間だけでなく、苦しんだ時間も貴重な経験だったということです。現地で苦しい思いをしているときは「時間を無駄にしている」とか感じてしまうこともあるかもしれませんが、わざわざ日本を離れるという大きな決断をして過ごしている留学生活に無駄な時間なんてありません。すべての瞬間が「留学を決断したから」経験できていることです。辛いこともなるようになります！ (笑) 気負いすぎず、良き急がずに素敵な留学生生活を過ごしてください！